

リスニング（よく聞くこと）の実例

リスニング（よく聞くこと）の価値：

リスニング（よく聞くこと）は感情的な傷を癒す助けとなる。人が他の人の話を実によく聞くとき、他の人はいっそう気持ちがよくなる。気持ちがよいとは感情的な傷が癒されることを意味する。メンターが子供の話を聞くとき、子供は自分の価値が認められていると感じる。すなわち、子供は支えられ、気に掛けられ、配慮され、励まされていると感じ、最も重要な『安心感』を得るのだ。リスニング（よく聞くこと）の焦点は子供との人間関係にあり、子供が抱えている問題にはない。子供がより気持ちよく感じ、より安心感を得、より自分の価値が認められていると感じれば、感傷を癒す処置が始まり、子供とメンター間の好意を促す。誰かから必要とされる時には、その人の話を共感を持って聞くことができる能力だけが、健全な人間関係の根本原理となる信頼関係を発展させる大きな助けとなるのだ。

以下の例は文化的に受け入れられている問題解決型の返答と共感的なリスニング（よく聞く）返答の比較である。

事例 1

子供：“All the kids went to the park and no one told me about it. Why didn't they tell me?” 「みんな公園に行って、誰もそのことを僕に教えてくれなかった。なんで教えてくれなかったんだろう？」

問題解決型回答：

メンター：“Hey, well, things don't always turn out like we'd like them to. It's no big deal. I'm sure the next time they will.” 「物事はいつも思うようにいくものではないんだよ。たいしたことではないさ。次回はきっと教えてくれるよ。」

子供：“They never do.” 「一度も教えてくれたとことがないよ。」

メンター：“Hey, that's a poor attitude. Just give them a chance and they will. I'm sure.” 「おい、それは良くない態度だよ。みんなにチャンスを与えなよ。そうすればみんなは教えてくれるよ。きっとそうさ。」

リスニング（よく聞くこと）の場合の回答：

メンター：“Gee, that sounds upsetting. It's hurtful to be left out.” 「なんと！それは気が動転しただろう。置いてきぼりにされるのは傷つくよな。」

子供：“Well, I hate those kids anyway.” 「僕、あいつらのことはどっちみち大嫌いだよ。」  
メンター：“It sounds tough to be with those kids.” 「そんな子供達と一緒にいるのは大変そうだな。」  
子供：“Yeah, well, they can do all sorts of things I can’t do. That’s probably why they don’t ask me along.” 「そうさ。あいつら、僕ができないことを全部できるんだ。たぶんそれが僕を誘わない理由なんじゃないかな。」  
メンター：“It sounds really discouraging.” 「それはとてもがっかりだな。」  
子供：“It’s not fair. Why don’t I know how to do things other kids can do?” 「不公平だよ。なんで僕は他の子供達が出ることができないんだろう。」  
メンター：“That’s a good question. I know how confusing this all is. I need a bit more time to get a better feeling for what has been said. As soon as I get some insight, I’ll share it with you.” 「それはいい質問だ。そういったこと全てがどんなにやっかいなことがよくわかるよ。君が話してくれたことについてもっと考えるためにもう少し時間が必要だ。何か思いついたら、話すよ。」

事例2：子供がメンターに “If you don’t buy me that toy I won’t like you anymore.” 「もしあのおもちゃを買ってくれないんだったら、もう嫌いになるよ。」と言う。

問題解決型回答：

メンター：“That’s not a nice thing to say to me. It kind of sounds like you are a bit spoiled. You know, we don’t always get what we want, and not getting it is no reason to threaten someone with not like them anymore. What of all the things we’ve done together. Doesn’t any of that count?” 「そんなことを言うのは良くないな。ちょっと甘やかされているように聞こえるよ。僕達はいつも欲しいものを手に入れられるとは限らないんだ。そして、手に入れられないからって、他の人を嫌いになると脅していい訳にはならないんだよ。僕達がいっしょにやってきたことはどうなるんだい？どれも重要じゃないのかい？」

リスニング（よく聞くこと）の場合の回答：

メンター：“Getting that toy would be fun, and I can see how disappointing it is not to get it. I do appreciate it when feelings are shared, and I thank you for that.” 「あのおもちゃで遊べたら楽しいから、買ってもらえないのはどんなにがっかりすることか、よくわかるよ。気持ちを共有してくれて嬉しいよ。ありがとう。」

子供：“Does this mean that you’re not going to get it for me?” 「それって、おもちゃを買っ

てくれないってこと？」

メンター： “It’s frustrating for me also that it isn’t in our budget to get that toy. It’s tough when we’ve spent the money on things we planned to buy, and we still want something else.” 「そのおもちゃを買う予算がないのには、僕もがっかりだよ。買おうと計画していたものを買って、他にもさらに欲しい時はつらいよね。」

子供： “Yeah, I know what you mean.” 「そうだね、言っている意味、わかるよ。」

メンター： “Thanks. That helps me feel better.” 「ありがとう。おかげで、いくらか気分がよくなったよ。」

事例 3 :

メンターの家に子供が訪れた際、“I don’t want to go home, and I’m not leaving.” 「家に帰りたくない。ここから離れないよ。」と言う。

問題解決型回答 :

メンター： “You don’t really mean that. It’s time to go, and anyway your mom is expecting you. Let’s get going.” 「本気でそう言っているんじゃないだろう。もう行く時間だよ。とにかく君のお母さんは君が帰るのを待っているんだ。さあ行こう。」

リスニング（よく聞くこと）の場合の回答 :

メンター： “I’ve really appreciated our time together. We had a pretty good time, didn’t we? I know that going home today seems a bit tough. It’s hard for me to know what’s really going on. I sure would be willing to hear about it.” 「いっしょに過ごせたことに本当に感謝しているよ。楽しかったよね。今日は家に帰るのが少しつらそうだね。何が実際起こっているかを知るのには僕にとってもつらいけれど、喜んで聞くよ。」

子供： “Every time I go home after seeing you, well, everyone wants to know what we did. Pretty soon my brothers are pounding on me, punching me, you know, telling me that I’m not so special anyway. I hate that.” 「いつも〇〇さんと会って家に帰ると、皆が僕達は何をしたかを知りたいがるんだ。そのうち兄弟たちが僕をばんばんたたいて、パンチしてきて、そうさ、とにかく僕はそんなに特別じゃないって言うんだ。そういうの大嫌いだ。」

メンター： “Thanks for sharing that. I can understand how going home is tough. It must be rough be caught up in that situation.” 「話してくれてありがとう。家に帰るのがどんなにつらいかわかるよ。そんな状況に陥ったら耐えられないに違いない。」

子供： “Can’t I stay here with you?” 「ここにいられないの？」

メンター： “Thanks for saying that. It gives me the feeling that our relationship is working out pretty well. Staying here isn't really possible though. We have to keep to the schedule so that everyone knows that this is a good program. Returning home on time is critical if your parents are going to trust us.” 「そう言ってくれて嬉しいよ。僕達の関係がとてもうまくいっていると確信できるよ。でもここに居続けるのは実際には無理だよ。僕達は予定通りに行動しなければならないよ。そうすれば、皆がこのプログラムが良いプログラムだってわかるから。時間どおりに家に帰るのは、君のご両親が僕達を信用するかどうかをみきわめるのに重要なんだよ。」

子供： “My parents wouldn't care if I didn't come home, and my brothers definitely wouldn't.” 「僕の親は僕が家に帰らなくても気にしないよ。兄弟たちは絶対気にしない。」

メンター： “It seems that coming out with me is causing a real problem at home. This is something that I don't know how to deal with either. Maybe this is something we should share about with the therapist. I bet that would help us. I'll bring it up in the next few days, and probably the therapist will guide us through this problem. OK?” 「僕と外へ行くのは家では大問題になっているみたいだね。僕にもどうしたらよいかわからないよ。おそらくこれはセラピストとも話さなければならない問題だよ。きっとそれが助けになるよ。2, 3日中にセラピストに話してみるよ。そうしたら、おそらくセラピストがどうすれば良いか指導してくれるだろう。いいかい？」

子供： “Yeah, that sounds like a good idea.” 「うん、いい考えだと思うよ。」

メンター： “Thanks. I'll do it then.” 「よかった。じゃあ、そうしよう。」

リスニング技術の練習。対話を創り出そう。

事例 1 :

“Jake, pick up the dishes will you?” 「ジェイク、お皿を片付けなさい。片付けるんでしょう？」部屋を出ていこうとしていたジェイクは母親に叫び返して言う。“In a few minutes, OK?” 「すぐするよ、いいでしょ。」

事例 2 :

“Jake, your room is a mess. Clean up before you go out, OK?” 「ジェイク、あなたの部屋は散らかっているわ。外へ行く前に片付けなさい。わかった？」ジェイクが出かけた後、母親が行ってみると、部屋は散らかったままだった。その後、母親はジェイクがドアから入ってくる音を聞く。

事例 3 :

ジェイクが家へ帰ってきた。彼の頬からは血がでている。母親は何があったのかを尋ね、ジェイクはけんかをしたと答える。

事例 4 :

ジェイクはサッカーの練習に行くことになっている。それを父親が確認すると、ジェイクは行きたくない、と言う。

事例 5 :

父親はジェイクの宿題を見るために部屋に行き、ジェイクがビデオゲームで遊んでいるのを見つけた。宿題のことを尋ねられると、ジェイクは見つけられなかったと言う。入れたはずのかばんの中になかったと言うのだ。

事例 6 :

父親が家に帰る。着替えた後、裏庭に庭いじりをしに行く。彼は犬が息を切らしているのを見付け、すぐに、ジェイクが水をやらなかったことに気づく。数分後、ジェイクが帰ってき、父親が水のことについて聞くと、ジェイクは、犬はいつも水をあげなくても大丈夫だと言う。

事例 7 :

母親はジェイクの部屋にこれ以上がまんができなくなり、掃除を始める。服を拾っていると、

小さなビニール袋がポケットから落ちた。それはマリファナだった。ジェイクがたまたま帰ってきて、母親がビニール袋を手にして、彼の部屋にいるのを見つける。彼は “What are you doing in my room, you can't just walk in here without permission. Would you like me to walk into your room just any old time?” 「僕の部屋で何をしているんだ。勝手に入ってくるなよ。僕がいつでもお母さんの部屋に勝手に入っていてもいいのかよ。」と叫ぶ。

事例 8 :

ジェイクが学校から帰ってきて、母親がどうだったか尋ねると、彼は学校が大嫌いでやめたいと言う。

事例 9 :

ジェイクがサッカーの練習から帰り自分の部屋に行く。その後、夕食に呼び、彼が席についた時、母親はジェイクが手や顔を洗っていないことに気づく。

事例 10 :

仕事に行くため車に乗りこむとき、父親は、ジェイクがサーフィンに行くため車を貸したときのサーフボードと砂まみれのタオルが車の中に置きっぱなしなのに気づく。ジェイクが学校まで車で送ってもらうために家から出てくる。

事例 11 :

父親は平日働きづめだったので、テニスの試合をするのを楽しみにしていた。テニスラケットを取りに行くと、彼が置いた場所がない。直感で、ジェイクの部屋を当たってみ、散らかり放題の部屋を奮闘しながら進んでいくと、糸が何本か切れたラケットを見つける。彼は裏庭でうろうろしていたジェイクを呼ぶ。

事例 12 :

両親は店へ出かけるところで、ジェイクに弟の面倒をみるように言う。2、3時間後に帰ってきて、子供達を探した後、彼らは弟が独りで裏庭で泣いているのを見つけた。母親は泣いている子供を抱き上げ、ジェイクを探しに家へ戻る。彼らはジェイクが自分の部屋で寝ているのを見つけた。